

金丸 林三 藤 文 彦

# 平市公報

第四十五號

昭和十六年十二月十五日

## 訓令

訓令第三號

從來土曜日ノ執務時限ハ午十二時迄ナルモ時局ノ重大性ニ鑑ミ之ヲ午後四時迄延長ス

昭和十六年十二月十一日

平市長 猪 瀬 乙 彦

## 告示

告示第五三號

平市參事會ノ議決ヲ經タル昭和十六年度平市歳入歳出追加更正豫算ノ要領左ノ如シ

昭和十六年十一月二十五日

平市長 猪 瀬 乙 彦

昭和十六年度平市歳入歳出追加更正豫算

歳入

△金百四萬九千七百貳拾貳圓

追加更正豫算高

歳出

△金參拾貳萬壹千八百八拾貳圓

經常部追加更正豫算高

△金參拾貳萬壹千六百參拾貳圓

既定豫算高

經常部臨時部合計金百四萬九千七百貳拾貳圓

追加更正豫算高

△同 歳入出差引殘金ナシ

既定豫算高

告示第五四號

平市參事會ノ議決ヲ經タル昭和十六年度特別會計公益質屋歳入歳出追加更正豫算ノ要領左ノ如シ

昭和十六年十一月二十五日

平市長 猪 瀬 乙 彦

昭和十六年度特別會計公益質屋歳入歳出追加更正豫算

歳入

金貳萬參千六百八拾貳圓  
△金貳萬參千五百五拾四圓

追加更正豫算高  
既定豫算高

歳出

金貳萬參千六百八拾貳圓

經常部追加更正豫算高

△金貳萬參千五百五拾四圓

同 既定豫算高

經常臨時部合計金貳萬參千六百八拾貳圓

△同 金貳萬參千五百五拾四圓

追加更正豫算高  
既定豫算高

歳入出差引殘金ナシ

告示第五五號

卒業期線上ノ適用ヲ受クベキ福島縣平商業學校ノ臨時措置ニ關スル學則  
左ノ通定ム

昭和十六年十一月二十五日

平市長 猪瀬乙彦

### 福島縣平商業學校生徒卒業線上ニ依ル 臨時措置ニ關スル學則

第一條 本則ハ卒業期線上ヲ受クベキ最高學年ニ之ヲ適用ス

第二條 本校ノ修業年限ハ四年九月トス

第三條 學年及學期左ノ如シ

學年ハ四月一日ニ始マリ十二月三十一日ニ終ル

學期ヲ分チテ左ノ二學期トス

第一學期 四月一日ヨリ八月三十一日迄

第二學期 九月一日ヨリ十二月三十一日迄

第四條 休業日左ノ如シ

一 日曜日

二 祝日、祭日

三 學校創立記念日

第五條 夏季休業ハ之ヲ廢止ス 但シ七月二十一日ヨリ八月三十一日迄ニ

於テ學校長ニ於テ適宜休業セシムルコトアルベシ

第六條 學科目、學科課程及每週教授時數別表ノ如シ

第七條 線上卒業者ニシテ上級學校進學志望者ヲ教育スル爲臨時補習科ヲ

置ク

第八條 臨時補習科ノ修業期間ハ一月上旬ヨリ三月下旬迄トシ學科目、學

科課程及每週教授時數ハ學校長ニ於テ之ヲ定ム

每週教授時數ハ三十四時以內トス

第九條 臨時補習科ノ修了者ニハ左ノ修了書ヲ授與ス

附則

校印	修了書
氏名	氏名
生年月日	生年月日
右本校臨時補習科ヲ修了セリ	
仍テ之ヲ證ス	
昭和 年 月 日	
福島縣平商業學校長 氏名	印
割印 第 何號	

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
授業料ニ關シテハ別ニ之ヲ定ム

學科目學科課程及每週教授時數表

學科要旨	學科	學年	每週教授時數	課程	主トシテ國民精神 徹底ニ關スル教科		主トシテ産業經營 ニ關スル教科		主トシテ科學精神 ノ涵養ニ關スル教科		主トシテ身心鍛鍊 ニ關スル教科		主トシテ技能及情 操陶冶ニ關スル教科			
					國民科	實業科	數理科	體操科	藝術科	珠算科						
	國民科	第一、三、五年	三	(1) 國民道德ノ要領、作法 (2) 公民心得 講讀、作文 國史	實業科	第三、四、五年	三	商工經營 簿記及會計 商業法規 商業經濟 東亞經濟	數理科	第二、五年	二	商算 重要商品	體操科	第一、三、五年	二	武藝 道練操
	藝術科	第一、五年	一	珠算	實業科	第二、五年	二	商算 重要商品	體操科	第一、三、五年	二	武藝 道練操	藝術科	第一、五年	一	珠算

合計	主トシテ自主綜合 ニ關スル教科		主トシテ實用外國 語ノ習得ニ關スル 教科	
	實踐 科	實業 科	英語	支那語
四〇	四	四	二	三
	實踐產業調查	實踐產業調查	講讀、作文、文法、商業英語 講讀、作文、會話	

告示第五六號

昭和十六年度福島縣平商業學校卒業期線上ノ適用ヲ受クヘキ最高學年ノ  
授業料ニ關スル件左ノ通定ム

昭和十六年十一月二十五日

平市長 猪瀬乙彦

昭和三十七年度福島縣平商業學校卒業期線上ノ適用ヲ受クヘキ最高學年ノ  
授業料ハ短縮シタル期間(昭和十七年一月乃至同年三月)ノ授業料ニ相當  
スル金額ヲ十一月十一月ノ授業料ニ於テ増額徴收ス

告示第五七號

平市水道給水條例左ノ通定ム

昭和十六年十二月一日

平市長 猪瀬乙彦

### 平市水道給水條例

#### 第一章 通 則

- 第一條 給水ノ方法ヲ分チテ左ノ二種トス
  - 一 專用給水 一戸又ハ一事業ノ専用ニ屬シ水量ヲ計リテ給水スルモノ
  - 二 共用給水 數戸ノ共用ニ屬シ水量ヲ計リテ給水スルモノ
- 第二條 給水ノ種類ヲ分チテ左ノ六種トス
  - 一 普通計量給水 一戸又ハ一箇所ノ専用ニ屬シ家事用 若ハ本條例第五條第六號列記ノ營業者竝ニ其ノ場所ニ供給スルモノ
  - 二 特別計量給水 噴水用、瀧用、池水、其ノ他娛樂用ニ供給スルモノ
  - 三 臨時計量又ハ臨時共用給水 工事、興行、其ノ他一時ノ用ニ供給スルモノ
  - 四 私設共用給水 獨立ノ専用裝置ヲ爲シ能ハザルモノニシテ數戸以上ノ共用ニ屬シ家事用ニ供給スルモノ
  - 五 公設共用給水 専用栓ヲ設クル事能ハザル使用者ニ供給スルモノ
  - 六 消火栓給水 一戸又ハ一箇所ノ専用ニ屬スル防火用ニ供給スルモノ
- 第三條 給水裝置ノ新設其ノ他ノ給水ニ關スル工事及給水裝置ノ撤去竝ニ給水ノ廢止ハ之ヲ市長ニ請求スベシ 給水裝置ヲ有スル家屋又ハ土地ノ所有權ヲ移轉シタル時ハ其ノ處分ヲ届出ヅベシ 若シ届出ヲサザルトキハ給水裝置ニ關スル權利義務ヲ同時ニ移轉シタルモノト看做ス
- 給水裝置ノ請求中ニ係ル家屋又ハ土地ノ所有權ヲ移轉セシ場合亦同シ
- 第四條 防火用ノ爲私設消火栓ヲ設クルコトヲ得
- 私設消火栓ハ火災又ハ演習ノ外之ヲ使用スルコトヲ得ズ 但シ市長ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラズ

演習ノ爲私設消火栓ヲ使用セントスルトキハ其ノ前日迄ニ届出當該吏員ノ立會ヲ受クベシ 私設消火栓ハ本市ニ於テ封緘ヲ付ス

- 第五條 左記各號ノ一ニ該當スルモノハ共用給水者タルヲ得ズ 但シ營業ノ用ニ供スルモノニシテ第二號及第三號ニ該當セズ且多量ノ水ヲ使用セザルモノハ市長ノ承認ヲ受ケ共用栓ヲ使用スルコトヲ得
  - 一 官公署、學校
  - 二 市民稅一人平均賦課額ノ五割以上ヲ納ムル者
  - 三 所得稅ヲ納ムル者
  - 四 營業ノ用ニ供スルモノ
  - 五 二人以上ノ徒弟又ハ雇人ヲ使用スルモノ
  - 六 鐵道機關用竝ニ製糸工場用
- 本條例ニ於テ營業ト稱スルハ左ノ營業又ハ職業ヲ謂フ
  - 銀行、會社、病院及病舎、集會場、劇場、寄席、旅人宿、下宿業、料理店、飲食店、貸座敷業、製造業、醸造業、酒、酢、醬油販賣業、印刷業、寫眞業、染物業、洗濯業、青物商、魚商、漬物商、湯屋業、植木業、理髮業、牛乳搾取業、鳥獸肉販賣業、家禽畜飼育業及飼育場、製菓業、諸市場、牛馬宿、木賃宿、寄宿所、屠畜場、金魚商、養魚業、自動車業 其ノ他市長ニ於テ多量ノ水ヲ使用スベキ業態ト認ムルモノ
- 第六條 配水管敷設ナキ箇所ニ居住スルモノ又ハ特殊ノ事由アルモノハ市長ノ承認ヲ受ケ共用栓ヲ使用スルコトヲ得 災害又ハ已ムラ得ザル場合ハ專用給水ノ資格者ト雖モ市長ノ承認ヲ受ケ一時共用栓ヲ使用スルコトヲ得 自己專用ノ水栓ノ修繕工事中ノ場合亦同シ
- 第七條 給水者ノ家屋ニハ其ノ門戸ニ本市ヨリ交付シタル標章ヲ掲クベシ
- 第八條 給水ハ災害又ハ工事若ハ配給上已ムコトヲ得ザル場合ノ外之ヲ制限又ハ停止スルコトナシ
- 給水ノ制限若ハ停止ヨリ生ズル損害ニ對シテハ本市其ノ責ニ任ゼズ

第九條 給水栓以外ノ給水装置及量水器ハ特ニ指示シタル部分ノ外之ニ觸レ又ハ開閉スベカラズ

給水装置トハ給水管水栓其ノ他ノ給水用具ヲ謂フ

第十條 給水装置所有者又ハ使用者變更シタルトキハ双方連署ヲ以テ其ノ旨届出ヅベシ 若連署ヲ得ルコト能ハザルトキハ承継者其ノ事由ヲ具シ市長ノ承認ヲ受クベシ

給水装置ノ所有權又ハ使用權ハ之ニ附隨セル義務ト分離移轉スル事ヲ得ズ

第十一條 給水装置所有者本市内ニ現任セザルトキハ本市現任者ヨリ代理人ヲ選定シ連署届出ヅベシ 代理人變更ノ時亦同シ

代理人ハ本條例ニ依リ本人ノ爲スベキ一切ノ事件ヲ處辨スルモノトス 施設共用ノ給水装置ヲ請求セントスルトキハ總代人一名ヲ選定シ市長ニ届出ヅベシ

總代人ハ本條例ニ依ル給水装置所有者又ハ保管者ト看做ス 代理人總代人ヲ市長ニ於テ不適當ト認ムルトキハ變更セシムルコトアルベシ

第十二條 給水ノ装置ハ本市之ヲ施行シ請求者ハ市指定ノ工費ヲ負擔スベシ 但シ請求者市長ノ許可ヲ受ケタルトキハ自己ノ材料ヲ提供シ又ハ自ラ量水器以下ノ流末工事ヲ爲スコトヲ得

給水請求者ニ於テ負擔スベキ給水装置ノ工費トハ配水管敷設道路中央ヲ起點トシテ計算シタル費用ヲ謂フ

第十三條 給水装置所有者、保管者、給水使用者代理人ハ家族、雇員若ハ同居者ノ行爲ニ對シ自己ノ指揮ニ非ザルノ故ヲ以テ其ノ責ヲ免ルルコトヲ得ズ

第十四條 専用給水者ハ其ノ構内ニ共同栓ヲ設クル事ヲ得ズ 但シ市長ノ承認ヲ得タル者ハ此ノ限ニ在ラズ

## 第二章 給水工事

第十五條 給水ニ關スル設備ヲ爲サムトスルモノハ工事ノ設計ヲ請求シ其ノ工事施行設計書ノ交付ヲ請クベシ 施設共用栓ヲ設ケトスル時ハ總代人ヲ定メ共用者連署シ之ヲ請求スベシ 工事設計請求者ハ金參圖ヲ前納スベシ 前納金ハ工事施行ノ際其ノ工費ニ充當ス 若シ工事請求ヲ取消シタル時ハ前納金ハ之ヲ還付セズ 但シ官公署、公立學校、公立病院等ハ工事設計請求前納金ヲ除外ス

臨時計量給水工事設計請求者ハ施行及撤去設計額並ニ給水料ノ一切ヲ豫納スベシ 但シ官公署、公立學校及公立病院ハ後納トスルコトヲ得

工費分納者ニシテ給水装置ノ撤去並ニ給水ノ廢止ヲ爲ストキハ未納ニ係ル工費及給水料其ノ他ノ費用ヲ完納スベシ 但シ撤去費用ハ別ニ之ヲ徵收ス

第十六條 給水請求者ニ於テ水槽ヲ設ケ又ハ流末装置ヲ爲サムトスルトキハ市長ノ許可ヲ受ケ所要材料ノ検査ヲ受クベシ 其ノ増設變更修繕施行ノ場合亦同シ

第十七條 他人ノ給水管ヨリ支管ヲ分設セムトスルトキハ本管所有者並ニ使用者若ハ保管者ノ承認ヲ得市長ニ請求スベシ

本管所有者ニ於テ給水廢止停止若ハ本管撤去ヲ爲サムトスルトキハ豫メ支管引用者ニ通知スベシ 此ノ場合ニ於ケル支管引用者ハ本管取得ノ手續ヲ爲サザルトキハ給水使用ヲ廢止シタルモノト看做ス

第十八條 給水装置ノ位置ハ請求者ニ於テ之ヲ指定スベシ 若シ其ノ指定ノ位置ヲ不適當ト認メタルトキハ變更セシムコトアルベシ 既設ノ水栓位置ヲ不適當ト認メタルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ第三者ヨリ異議アルモ本市其ノ責ニ任セズ

給水工事施行ノ結果工作物ノ復舊ヲ要スルトキハ請求者之ヲ施行スルモノトス

第十九條 給水工事ノ請求者ハ指定ノ期限内ニ其ノ工費ヲ納付スベシ

給水工事ハ工費完納セシ後又分納許可者ハ一月分納付後ニ非ザレバ施行セズ 官公署、學校、其ノ他市長ニ於テ工費前納ノ必要ナシト認メタル

工事ニ對スル工費ハ此ノ限ニ在ラズ 設計上特別手數ヲ要スルモノハ市長ノ定ムル設計手數料ヲ納付セシムルコトアルベシ

第二十條 給水裝置費ヲ一時ニ納付スルコト能ハザル者ハ市長ノ許可ヲ受ケ十月ノ月賦ヲ以テ納付スルコトヲ得

給水裝置費分納許可者ハ市長指定ノ分納證書ヲ提出シ一ヶ月ノ分納額ヲ納付シ工事ノ施行ヲ請求スベシ 分納ニハ保證人ヲ立テ分納證書ニ連署ヲ要ス

相當擔保ヲ提供シタル場合ニハ保證人ヲ要セザルコトアルベシ 分納保證人ヲ不相當ト認ムルトキハ變更セシムルコトヲ得

第二十一條 分納額ニハ工費總額ニ對スル利息ヲ加算ス 其ノ利率ハ市長ノ定ムル所ニ依ル分納金ヲ滯納セシトキハ給水裝置ヲ撤去スルコトアルベシ 前項ノ場合ニ於テ既納工費ハ之ヲ還付セズ 若シ既納工費ニシテ撤去費用並ニ材料價格ノ減損及給水料其ノ他ノ未納金ヲ補フニ足ラザルトキハ之ヲ追徴ス

第二十二條 分納ニ係ル給水裝置ハ工費完納ニ至ル迄本市ニ於テ所有權ヲ留置シ請求者ヲシテ保管ノ責ニ任ゼシム

分納金完納前給水裝置ノ不用ニ歸シタル時給水裝置保管者變更シタル時又ハ本條例ノ規程ニ違反シタル時ハ其ノ未納ニ係ル分納金ハ即時完納スベシ

第二十三條 給水工事ノ竣工費ニ過不足ヲ生ジタル時ハ過剩金ハ之ヲ還付

シ不足ハ追徴ス 前項追徴ノ場合ニ於テハ追徴金完納迄ハ本市ニ於テ給水裝置ノ所有權ヲ留置シ請求者ヲシテ保管ノ責ニ任ゼシム

第二十四條 前條ノ追徴金ヲ指定期限内ニ納付セザルトキハ其ノ給水裝置ヲ撤去スルコトアルベシ 但シ之ガ爲本市ニ生ジタル損害ハ之ヲ賠償セシム

第二十五條 給水工事設計書ノ交付ヲ受ケ指定ノ期限内ニ工費ヲ納付セズ又ハ分納證書ヲ提出セザルトキハ請求ヲ取消シタルモノト看做ス

但シ既納金ハ之ヲ還付セズ 且工事施行準備ニ要シタル費用アル時ハ別ニ之ヲ徴收ス

第二十六條 新ニ給水裝置ヲ爲シタル後三月以内ニ瑕疵アルコトヲ發見シタルトキハ本市ノ費用ヲ以テ之ヲ修理ス

第二十七條 給水裝置ノ故障又ハ水質ニ異狀アルコトヲ發見シタルトキハ直ニ修理其ノ他必要ノ處置ヲ請求スベシ 若請求ヲ爲サザルトキハ本市之ヲ施行ス

前項修理ニ要シタル費用ハ給水裝置所有者ノ負擔トス 但シ事情ニヨリ之ヲ減免スルコトアルベシ

給水裝置ノ破損、漏水ニ因ル損害ハ本市其ノ責ニ任ゼズ

第二十八條 給水裝置所有者其ノ給水ノ使用ヲ廢止シタル時ハ直ニ給水裝置ヲ撤去ヲ請求スベシ 本市ニ於テ給水廢止ノ狀態ト認メタル時ハ其ノ旨所有者ニ通知シ三十日ヲ過グル時ハ請求ヲ俟タズ給水管ヲ切斷スル事アルベシ

第二十九條 道路ノ變更其ノ他ノ事由ニ依リ水道配水管ヲ移轉ヲ要スル時ハ之ニ伴フ各戸給水管ノ改造工事ハ請求ヲ俟タズ本市ニ於テ之ヲ施行ス

前項ノ費用ハ配水管移轉ノ必要ヲ生ゼシメタル者ノ負擔トシ給水管ノ不用トナリタルモノアル時ハ所有者ニ還付ス

第三章 給水

第三十條 給水ノ開始中止又ハ廢止セムトスル時ハ前日迄ニ給水装置所有者ハ使用者運署ヲ以テ請求スベシ 公私設共用給水者ニアリテハ總代人運署若ハ使用水栓ヲ變更セントスル時ハ新舊兩總代人運署ヲ以テ届出ヅベシ

第三十一條 共用給水ハ使用戸數ニ應ジ鑑札及鍵ハ指定シタル水栓以外ニ之ヲ使用スル事ヲ得ズ

鑑札及鍵ハ之ヲ連繋シ使用者汲水ノ際之ヲ携帯スベシ 鑑札及鍵ヲ毀損シ若ハ亡失シタル時ハ鑑札鍵各一個ニ付參拾錢ノ手数料ヲ納付シ直ニ再交付ヲ請求スベシ

第三十二條 鑑札及鍵ノ不用ニ歸シタル時又ハ亡失セシ鑑札及鍵ヲ發見シタル時ハ直ニ之ヲ返納スベシ

第三十三條 量水器ハ本市ニ於テ之ヲ裝置シ使用料ヲ徵收ス 但シ本條例第十五條第三項ノ場合ハ相當價格ヲ豫納セシムル事アルベシ

第三十四條 給水装置所有者、保管者又ハ使用者ハ量水器保管ノ責ニ任ジ若シ之ヲ亡失毀損セシ時ハ其ノ損害ヲ賠償スベシ

第三十五條 給水使用者ハ量水器ノ試験ヲ請求スル事ヲ得 前項試験ノ結果水量百分ノ六以内ノ差異アル時ハ市長ノ定ムル試験手数料並ニ取外取付運搬等ノ費用ヲ徵收シ使用水量ハ更定セズ

水量百分ノ五ヲ超過シタル差異アル時ハ前回點檢以後ノ使用水量ハ之ヲ訂正シ其ノ所要費用ハ徵收セズ

第三十六條 給水装置ノ檢査及量水器ノ點檢其ノ他戸數、人口ノ調査ヲ時々施行ス

臨檢ノ吏員ニハ必ず職員タルノ證據ヲ携帯セシム

第三十七條 左ノ場合ニ於テハ三日以内ニ届出ヅベシ

- 一 給水種別ヲ變更スベキ事由ヲ生シタルトキ
- 二 戸數、人口、職業其ノ他料金算定ノ標準ニ異動アリタルトキ
- 三 給水装置所有權ニ異動ヲ生ジ又ハ住所氏名ヲ變更シタルトキ
- 四 給水請求者變更シタルトキ
- 五 代理人總代人ノ變更又ハ其ノ資格ヲ失ヒタルトキ若ハ住所氏名ヲ變更シタルトキ
- 六 火災ノ爲私設消火栓ヲ使用シタルトキ
- 七 給水装置ノ燒失シタルトキ
- 八 門戶標識又ハ鑑札鍵ヲ毀損亡失シ若ハ亡失セシ標識鑑札鍵ヲ發見シタルトキ

第三十八條 左記各號ノ一ニ該當スルトキハ給水ヲ中止ス

- 一 一時給水ノ不用ト認メタルトキ
- 二 給水装置所有者其ノ管理ヲ爲サザルモノト認メタルトキ
- 三 給水装置ノ損傷其ノ他ノ事由ニヨリ必要ヲ認メタルトキ
- 四 給水料又ハ工事費ヲ滞納シタルトキ

第四章 料 金

第三十九條 給水料ハ一ヶ月左ノ種別ニ依リ徵收ス

- 一 普通計量給水料
  - (イ) 使用高十立方突迄金九拾五錢
  - (ロ) 以上五十立方突迄ハ一立方突ヲ増ス毎ニ金九錢七厘ヲ加フ
  - (ハ) 以上百立方突迄ハ一立方突ヲ増ス毎ニ金七錢四厘ヲ加フ
  - (ニ) 以上超過水量ニ對シテハ一立方突ヲ増ス毎ニ金六錢ヲ加フ
  - (ホ) 湯屋營業者給水量ハ使用高五十立方突迄ハ金參圓以上一立方突ヲ増ス毎ニ金參錢五厘ヲ加フ
  - (ヘ) 鐵道機關用並ニ製糸工場用給水料ハ使用高百立方突迄金六圓

百一立方米突以上二百立方米突迄金拾圓 二百一立方米突以上  
ハ一立方米突ヲ増ス毎ニ金參錢五厘ヲ加フ

(ト) 殖産上必要アリト認ムルモノアルトキハ市會ノ議決ヲ經前號ノ  
料金ニ準シ輕減スルコトヲ得ルモノトス

二 特別計量給水料

園地、噴水、瀧、其ノ他娛樂用給水料ハ四立方米突迄金壹圓以上  
一立方米突ヲ増ス毎ニ金貳拾五錢ヲ加フ

三 臨時計量給水料ハ普通計量給水料ノ六割増トス、但シ防火用水槽及  
同池ノ給水料ハ一回ノ給水量二十五立方米突迄金壹圓貳拾錢トシ以  
上一立方米突ヲ増ス毎ニ金五錢ヲ徵收ス

四 公私設共用給水料

(イ) 公設共用給水使用者一戸平均五立方米突迄一戸ニ付金參拾五錢  
以上一立方米突ヲ増ス毎ニ金六錢ヲ加フ

(ロ) 私設共用給水使用者一戸平均七立方米突迄一戸ニ付金五拾參錢  
以上一立方米突ヲ増ス毎ニ金七錢加フ

(ハ) 浴槽一個金貳拾錢 但シ使用水量ハ一ヶ月三立方米突トス  
(ニ) 本條例第五條第一項但書ニ依リ市長ノ承認ヲ得タルモノ、料金  
ハ一ヶ月金壹圓參拾錢トス  
但シ使用水量及超過水量ニ對スル使用料徵收ハ本項(イ) (ロ)  
ノ例ニ依ルモノトス

五 私設消火栓給水料

(イ) 演習一回十五分毎ニ一個ニ付金七拾五錢  
(ロ) 火災ノ爲メ使用スルモノハ無料トス 但シ消火栓ノ専用装置ニ  
アラズシテ使用水量分明ナラザルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第四十條 共用給水使用者ノ使用水量ハ各戸均等ニ使用シタルモノト看做ス  
第四十一條 本條例第六條ニ依リ共用給水ヲ使用スルモノ、料金ハ本條例第

三十九條第四號(ニ)ニ準ジ之ヲ徵收ス

第四十二條 量水若ハ給水装置ノ故障等ニ依リ使用水量判明セザルトキハ  
市長之ヲ認定ス

第四十三條 公私設共用給水者ニシテ本條例第五條ニ依リ普通計量給水ニ  
變更シタルモノ、料金ハ本條例第三十九條第一號ニ依リ之ヲ徵收ス

普通計量給水者ニシテ共用給水ニ變更シタルモノ、料金、舊種別ノ料金  
ノミヲ徵收ス

第四十四條 給水料ハ毎月量水器ヲ點檢シ其ノ料金ヲ算定シ納入告知書ヲ  
發付シ之ヲ徵收ス 但シ給水開始月ノ十五日以前ナルトキハ全月分十六  
日以後ナルトキハ半月分、閉栓月ノ十五日以前ナルトキハ半月分、十六  
日以後ナルトキハ全月分ヲ徵收ス

給水廢止、中止ノ際一立方米突未滿ハ一立方米突分ヲ徵收ス  
第四十五條 量水器使用料ハ一ヶ月左ノ區別ニ依リ裝置中給水料徵收ノ例  
ニ依リ之ヲ徵收ス 但シ月ノ十六日以後取付ケタルモノ及十五日以前取  
外シタルモノハ半月分トス

內 徑 十 三 耗	金 參 拾 五 錢
內 徑 十 六 耗	金 四 拾 錢
內 徑 二 十 耗	金 四 拾 五 錢
內 徑 二 十 五 耗	金 五 拾 錢
內 徑 五 十 耗	金 壹 圓 五 拾 錢
內 徑 七 十 五 耗	金 參 圓
內 徑 百 耗	金 四 圓 五 拾 錢
內 徑 百 五 十 耗	金 六 圓

私設共用給水装置使用料ハ給水装置所有者ヨリ徵收ス  
第四十六條 流未裝置其ノ他市長ノ許可ヲ受ケ施行スル諸工專用具ノ検査  
手数料ハ左ノ區分ニ依リ徵收ス



- 一 鉛管類 一條十五米突迄金貳拾五錢以上三米突毎ニ金貳拾錢ヲ加フ
- 二 鐵管類 長短大小ニ拘ラズ一本金五拾錢
- 三 水栓類 一個ニ付金貳拾錢
- 四 以上用具ノ外檢査ヲ爲シタルトキハ其ノ實費ヲ徵收ス
- 第四十七條 給水栓ノ新設、變更、増設、撤去又ハ閉栓、開栓ヲ要スルトキハ左ノ手數料ヲ徵收ス
  - 一 新設給水裝置設計手數料金壹圓
  - 二 給水裝置増設變更設計手數料金五拾錢
  - 三 給水裝置撤去手數料金參拾錢
  - 四 閉栓、開栓手數料各金拾錢
- 第四十八條 給水料納付後其ノ料金ニ増減スベキ事由ヲ生ジ若ハ發見シタルトキハ次ノ徵收給水料ニ於テ増減ス
  - 第四十九條 給水料ハ天災其ノ他避クベカラザル事故アリタル時又ハ工事上ノ必要ニ依リ給水ノ停止又ハ制限ヲ爲シタルトキト雖モ之ヲ減免セズ
  - 第五十條 貧困者ニシテ給水料ノ負擔ニ堪ヘズト認ムル者若ハ慈善事業等特別ノ事由アルモノハ市長ノ認定ニ依リ給水料ヲ輕減シ又ハ免除スルトアルベシ 但シ市長ハ何時ニテモ其ノ認定ヲ取消スコトヲ得
  - 第五十一條 本條例ノ規定ニ依リ市長ト於テ定ムル手數料ハ五圓以內ノ範圍ニ於テ徵收ス 但シ實費五圓ヲ超ニル場合ハ其ノ實費額ヲ徵收スルトアルベシ

第五章 違反處分

- 第五十二條 左記各號ノ一ニ該當スル行爲アルトキハ三ヶ月以內其ノ栓ノ給水ヲ停止スルノ外其ノ行爲ノ情狀ニ依リ五圓以下ノ過料ヲ料スルトアルベシ
- 一 給水ヲ濫用シ又ハ他ニ分與シ若ハ許可ナクシテ販賣シタルトキ
- 二 量水器ノ作用ヲ妨害シ又ハ既定ノ用途以外ニ使用シ給水料ノ遁脱ヲ企リタルトキ
- 三 恣ニ給水裝置ノ増設加工又ハ變更ヲ爲シタルトキ
- 四 給水中止中濫リニ止水栓制水弁ヲ開キ又ハ市ノ封緘ヲ破毀シタル時
- 五 共用栓附近ニ於テ洗濯、米精キ、其ノ他汲水ノ妨害トナルベキ所業ヲ爲シタルトキ
- 六 鍵、鑑札ヲ貸借シ又ハ不正ノ鑑札鍵ヲ使用シタルトキ
- 七 當該吏員ノ制止ヲ拒ミ又ハ職務執行ヲ妨害シタルトキ
- 八 給水ノ種類變更スベキ業態ニ轉ジ之ヲ届出ヲ怠リタルトキ
- 九 門戶標章ヲ掲ゲザルトキ
- 十 許可ナクシテ水栓ヨリ送水器具ヲ引用シ又ハ水槽ヲ設ケ其ノ以下ノ導水裝置ヲナシタルトキ
- 十一 無斷ニ水栓其ノ他ノ改造修繕撤去ヲナシタルトキ
- 十二 指定水栓以外ノ共用栓ヲ使用セントキ
- 十三 鑑札、鍵ヲ携帯セズ給水ヲ使用セントキ
- 十四 代理人ノ選定ヲナサザルトキ
- 十五 本條例ノ規定ニ依リ届出ノ義務ヲ怠リ又ハ虚偽ノ届出若ハ申立ヲ爲シタルトキ遁脱シタル水量ハ市長之ヲ査定シ追徵ス
- 十六 給水料工事費其ノ他本條例ノ規定ニ依リ納付金ヲ指定ノ期限内ニ納付セザルトキ
- 第五十三條 停止處分ヲ解除スル場合ニ於テ之ニ要シタルトキハ之ヲ徵收ス
- 第五十四條 本條例ノ施行細則ハ別ニ市長之ヲ定ム

附 則  
本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

告示第五八號

臨時家族手當支給規程中左ノ通改正ス

昭和十六年十二月八日

平市長 猪瀬乙彦

- 第一條 第七號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ  
 八 現役中ノ者
- 第四條 第一條第一號ニ該當スル者ト雖モ其ノ實收月額ガ百六十圓ニ滿タザル者ニ付テハ本規程ニ據ル臨時家族手當ヲ支給ス 但シ其ノ金額ハ實收月額ト合シ百六十圓ヲ超ニルコトヲ得ズ
- 第五條中 「俸給、給料又ハ手當」ノ次ニ「臨時手當其ノ他時局ノ影響ニ因ル一時的ノモノヲ除ク」ヲ加フ
- 第八條第二項中 「第四條ニ該當スルニ至リタル場合」ノ次ニ「及第四條ニ該當スル者ニシテ實收月額ニ異動ヲ生ジタル場合」ヲ加ヘ「扶養家族數減ジタル場合」ノ下「及」ヲ削ル
- 第十二條 臨時家族手當ノ支給ヲ受クル者退職又ハ休職ト爲リタルトキ死亡シタルトキ 第一條第八號ニ該當スルニ至リタルトキ若ハ第四條ニ該當セザルニ至リタルトキト雖モ其ノ月分ニ付テハ其ノ全額ヲ支給ス

○辭令

十二月五日  
 依願解職 書記補 鯨岡武弘

◎彙報

○庶務

十一月中文書收受發送數

計	其 他	印 鑑	身 別	種 別	件 數	料 金
計	一六八	一一一	四四	八圓八〇錢		
收受	一、四八七	一八三	九六	六六	二四九	一〇二
發送	二、七一五	四二〇	五二九	七〇	八〇五	四二二
計	四、二〇二	六〇三	六二五	一三六	四九九	三三五

### 十一月中公會堂使用狀況

種別	回数	數日	數	使用料
有料	一八	二二	一一	一七九圓二〇錢
無料	九	一一	一一	
市役所使用	三五	四三	一一	

### 十一月中戶籍寄留件數調

種別	本籍		非本籍		計
	出	死	出	死	
出生	五五	二七	一一	三九	八六
死亡	三五	二二	一	三六	三九
離婚	二				二
其他	一七五	五六	四四	二一九	二一九
計					

### 公益質屋事業成績

職業	貸付狀況	辦濟狀況	質物種類	貸付狀況	辦濟狀況
勞働者	三	二四	債	三三〇三	二二
俸給生活者	一	一	家	三三〇三	二二
			具		

平市公報 第四十五號 昭和十六年十二月十五日 (每月一回十五日發行)

小工業者	小商人	農業者	漁業者	其ノ他	計
四	二	一	一	三	二七
元	元	元	元	元	元
累四月以降	累四月以降	累四月以降	累四月以降	累四月以降	累四月以降
一七六	二六	二六	二六	二六	二六
一四七	一四七	一四七	一四七	一四七	一四七
四	四	四	四	四	四
四	四	四	四	四	四
四	四	四	四	四	四
四	四	四	四	四	四
四	四	四	四	四	四

### 衛生

### 十一月中埋火葬

埋葬	死亡	死亡	計
一〇	四	四	一四

火葬	種別		人員	金額
	甲	乙		
計	三	一	四	一〇〇〇〇
本市住民	二	一	三	九〇〇〇
他町村	一	〇	一	一〇〇〇
人員計	三	一	四	一〇〇〇〇
金額計	二	一	三	九〇〇〇

### 傳染病患者

病名	越人員	本月發生	計	同上ノ内		現十一 月末日 在
				入院	全治	
腸チフス	二	四	六	六	二	
パラチフス	一	五	六	六	二	
チフテリア	一	一	二	二	二	
赤痢	一	一	二	二	二	
疫痢	一	一	二	二	二	
猩紅熱	三	二	五	五	二	
計				一九	一四	四

### 昭昭十六年度乳幼児一齊健康相談實施

母性乳幼児ノ體力向上ヲ圖ルハ時局下極メテ緊要ナル方策ナルヲ以テ本年  
度本市乳幼児一齊健康相談左記日割ノ通實施シタリ

#### 乳幼児一齊健康相談日時場所及區域

月日時	場所	指導醫名	衛生區名	健康相談施行區域
十一月十四日 自午後一時 至午後四時 (金曜日)	平第三國 民學校 講堂	根本莊次郎	第一三區	南町
		全 人	第二區	南町
		木村寅次郎	第八區	丁目
		全 人	第九區	丁目
		全 人	第二六區	見町
		五十嵐雄二	第二八區	丁目

月日時	場所	指導醫名	衛生區名	健康相談施行區域
十一月十五日 自午後一時 至午後四時 (土曜日)	平市第一 國民學校 講堂	大森 勇	第一區	長橋町
		赤羽 清	第二區	研古町
		全 人	第三區	紺屋町
		全 人	第四區	田屋町
		村上 則裕	第七區	北町
		全 人	第五區	一丁目
		全 人	第六區	二丁目
		全 人	第七區	三丁目
十一月十七日 自午後一時 至午後四時 (月曜日)	平第一國 民學校 講堂	實川彌太郎	第二區	材木町
		全 人	第三區	中町、銀治町
		清水 廣政	第四區	才樋小路
		全 人	第五區	久保町
		全 人	第五區	八幡小
		全 人	第六區	北白銀町
		遠藤 淺香	第七區	仲間町
		全 人	第七區	井坂久吉
		井坂 久吉	第二四區	齋城跡

十一月二十六日	平市第四國民學校講堂	清水廣政	第二九區	上平窪
自午後一時	國民學校	全人	第三〇區	中平窪
至午後四時	講堂	白土德彌	第三一區	下平窪
		全人	第三二區	中鹽、四波
			第三三區	鯨幕ノ内、大室岡

### 讀賣醫療奉公隊無料巡回診療實施

讀賣新聞社ニ於テハ社會事業ノ一トシテ無料巡回診療ヲ十一月廿七日午前九時ヨリ午前九時ヨリ午後三時迄平市第四國民學校ニ於テ實施シタリ其ノ結果左記ノ通

### 記

病婦人	病痛	病疾	病症	病疾	病疾	病疾	病疾	病疾	病疾
婦人	痛	疾	症	疾	疾	疾	疾	疾	疾
診療人員	診療人員	診療人員	診療人員	診療人員	診療人員	診療人員	診療人員	診療人員	診療人員
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
病名	病名	病名	病名	病名	病名	病名	病名	病名	病名
消化不良	呼吸器病	腎臟病	百日咳	蓄膿症	勝力丸	計			
八	二	三	四	二	一	九〇			
話療人員	話療人員	話療人員	話療人員	話療人員	話療人員	話療人員	話療人員	話療人員	話療人員

### ○教務

### 第四回 鷓島縣四市教育事務研究会

標記教育事務研究会ヲ十一月二十五、六日市公會堂日本間、商業學校講堂ニ於テ鷓島、若松、郡山、平市教育事務擔當者並ニ縣教育關係官出席ノ下ニ時局下重要教育事務諸般ニ互リ研究協議ヲ爲ス

### 貯蓄實踐強調運動實施

決戰態勢下ニ對應シ國民貯蓄ノ増強ヲ圖ルタメ十二月四日ヨリ十二月十三日迄一大國民運動トシテ貯蓄實踐強調運動ヲ左記ニ依リ實施ス

### 記

### 貯蓄實踐強調運動實施要綱

- 一、趣旨 支那事變ノ目的ヲ完遂シ緊迫セル國際情勢ニ對處スルタメ戰時體制ノ急速ナル整備ハ現下喫緊ノ要務ナリ 而シテ之ガ所要資金ノ調達上ハ勿論購買力吸收ノ見地ヨリスルモ貯蓄増強ノ要ハ愈々緊切ニシテ之ガ成否ハ實ニ國策諸般ノ圓滑ナル運行如何ノ岐ル、所ナリ依テ此ノ際特ニ本運動ヲ起シ全國民ノ貯蓄能力結集シ以テ時艱ノ克服ニ邁進セムトス
- 二、名稱 貯蓄實踐強調運動
- 三、期間 自十二月四日(木) 至十二月十三日(土) 十日間
- 四、實施事項
  - 1 區内會長及貯蓄組合長ハ戰時貯蓄ノ目的ヨリ見テ組合貯蓄ノ特ニ重要ナル所以ヲ強調シ區内未結成組合ノ結成ヲ圖ルハ勿論既設組合ノ内容ヲ檢討シ貯蓄額ノ引上未加入者ノ絶滅ヲ期スルコト

- 1 未結成組合ヲ各區ニ通知スルニ付必ス結成セシムルコト(臺帳用紙類)其ノ他指導等ニ付テハ教務課振興係ニ申出ノコト
- 2 本年度國民貯蓄目標額百參拾五億圓ヲ百七拾億圓ニ改訂セラレタル今日、本市ノ目標額改訂モ必然的ナルニ鑑ミ殊ニ地域の組合ノ貯蓄低率ナルハ遺憾ニ付之カ倍加ヲ期スルコト
- 3 平窪方部ノ農家部落ニアリテハ米穀賣却代金ノ天引貯蓄及産米獎勵金ノ全額貯蓄斷行スルコト
- 4 年末ニ於ケル収入増加(年末賞與其ノ他)ノ實情ニ即シ特ニ貯蓄率ノ引上斷行及年末購買力吸收ノ手段ヲ購ズルコト
- 5 尙會社、工場等ニアリテハ追テ通牒スルモ年末國債支給實施方準備ノコト
- 6 區内會長及貯蓄組合長ハ戰時生活ノ確立及貯蓄實踐ニ背馳スルガ如キ事項ヲ抑制シ時局ノ緊迫化ニ伴フ貯蓄ノ障害トナルベキ言動ノ除去ニ努メ以テ戰時財政々策ニ協力シ強力ナル生活刷新ヲ斷行スル事以上徹底ヲ圖ルタメ區内常會隣組常會ヲ開催ノコト
- 地域以外ノ組合ニ於テモ右ニ準シ趣旨徹底ニ努ムルコト

### ○社會

#### 十一月中救護狀況

種別	世帯類	人員	延人員	金額
救護法ニ依ル救護	一一三	八五二	五五〇	二五九、二〇〇
母子救護法ニ依ル救護	一一二	一一二	三六〇	六二、一〇〇
	三三三	三三三	九九〇	一一四、〇〇〇

### ○兵事

#### 入營兵送別會

昭和十六年壯丁ノ入營入國兵送別會ヲ十一月二十六日午前九時ヨリ縣社子歛倉神社大前、同九時三十分ヨリ縣社飯野八幡神社ノ大前ニ於テ嚴肅ナル奉告祭執行、次テ十時三十分ヨリ公會堂ニテ壯行會ニ移リ伊藤助役開會ヲ宣シ國民儀禮、國歌齊唱、市長送辭、其ノ他主催者送辭、市會議長、國民學校長其ノ他祝辭、入營兵總代答辭、萬歲奉唱、次テ粗宴ニ入り正午閉會、盛會裡ニ終了セリ

市長送辭次ノ如シ

#### 送辭

本日ヲトシ子歛倉神社並縣社飯野八幡神社ノ大前ニ於テ本年入營團セラレヘキ諸君ノ武運長久ヲ祈リ其ノ壯途ヲ祝福センガタメ嚴肅ナル祭儀ヲ行ヒ且ツ清楚ナル送別會ヲ開催イタシマスコトハ誠ニ欣快トスル所デアリマス諸君ハ數アル壯丁中ヨリ簡拔セラレテ帝國軍人トナル所以ノモノハ鞏固ナル精神ト強健ナル身體ト堅實ナル志操トヲ有シ其ノ旺盛ナル志氣ト颯爽タル雄姿トガ眞ニ 陛下ノ股肱トシテ皇國日本ヲ護ルニ適シキ態度テアルカラテアリマシテ限リナキ歡喜ト心強サヲ感スル次第デアリマス抑々人道ヲ尊重シ正義ヲ擁護シ人類ノ平和ト國際親善トニ寄與スルハ大和民族ノ傳統的使命デアルト同時ニ我力建國ノ大精神デアリマシテ悠久並ニ二千六百年燦トシテ國史之ヲ證シ日月ト共ニ陸離タル光彩ヲ萬邦ニ輝カシテ居ルノデアリマス 遮莫帝國ハ由來萬邦ヲ友トシ國交ヲ

敦クシ親睦ヲ持續シツツアツタノテアリマスカラ今次ノ支那事變ハ東亞ノ天地ニ一大暗影ヲ投スルニ至リマシタノテ我皇國ハ不動ノ國策ニ基キ驟然起ツテ破邪顯正ノ劍ヲ執リ聖戰竝ニ四年五閱月皇軍ノ嚮フ所空ニ陸ニ將タ海ニ連戰連捷破竹ノ勢ヲ以テ頑敵ヲ擊滅シ以テ今日ノ偉大ナル戰果ヲ收メマシタコトハ素ヨリ

大元帥陛下ノ御稜威ニ依ルコトハ白スモ長キ極ミテアリマスカ諸君ノ先輩タル我カ忠勇無双ノ將士各位カ日夜寒暑ヲ忍ビ有ユル困苦缺乏ニ耐ヘ力戰奮闘セラレタ給果テアリマシテ其ノ赫々タル武勳ニ對シ吾々國民ハ感謝感激措ク能ハサルヲ覺ユル次第テアリマス

今次ノ事變ハ申ス迄モナク暴支膺懲ヲ契機トシテ我カ皇國カ肇國ノ主義理想タル八紘一字ノ大精神ニ則リ東洋ニ於ケル積年ノ禍根ヲ除キ日滿支ヲ樞軸トスル大東亞共榮圈ヲ建設シ東洋永遠ノ平和ヲ確立シ人類ノ福祉ニ寄與セントスル所謂興亞ノ聖業ニ外ナラヌノテアリマス而シテ此ノ聖業ヲ翼贊スルタメ曩ニ新興中華國民政府成立シ殺伐タリシ戰場ニ黎明ノ曙光ヲ見加フルニ其ノ後日獨伊三國同盟ヲ締結シテ世界新秩序建設ヘノ一大推進力トモナリツツアルハ甚タ欣快トスル所テアリマス然ルニ容共抗日ヲ策シ東亞ノ秩序ヲ破壞セル蔣政權ハ今ヤ名實共ニ地方政權ニ顛落シ潰滅ニ瀕シツツモ猶未タニ抗戰ヲ繼續シ殊ニ三國同盟締結以來英米ノ援蔣政策ハ愈々露骨トナリ更ニ獨蘇開戦トナルヤ彼等ハ包圍陣ノ形成ニ依ツテ大東亞共榮圈ヲ確立スヘキ皇國ノ進路ヲ阻マントスル態度ヲ示シ國交調整ノ前途益々多事多難ヲ告ケ皇國トシテハ茲ニ一步ヲ誤レハ興廢ノ運定マラントスル一大危局ニ直面シテ居リマスノテ我等神州國民タルモノ眞ニ舉國一致盡忠報國ノ赤誠ヲ捧ク堅忍持久ノ志操ヲ堅持シ國家ノ總力ヲ動員シ速ニ高度國防國家體制ヲ整ヘ斷乎時艱ヲ克服シテ聖業完遂ニ邁進スヘキ秋テアルト確信スルモノテアリマス斯ノ如キ非常重大ナル時ニ際シマシテ諸君ハ選ハレテ國家ノ干城タル名

譽ヲ膺テ得マシタコトハ男子ノ本懐之ニ過クルモノハナイト信シマス之レ當ニ諸君最高ノ名譽タルノミナラス又吾平市ノ光榮トスル所テアリマス希クハ益々國家ノタメ自重自愛健康ニ留意セラレ帝國軍人タルノ本分ヲ完ウシ神明ノ加護ニ依リ盡忠報告ノ誠ヲ致シ以テ聖旨ニ副ヒ奉ランコトヲ切望シテ己マスモノテアリマス以上聊カ微衷ヲ陳ベテ送辭ト致シマス

昭和十六年十一月二十六日

平市長 正五位勳三等功五級 猪瀬 乙彦

### ○警 防

#### 防火デー運動實施

火災防止ハ現下ノ緊迫セル情勢ニ鑑ミ其ノ必要一層緊切ナルヲ以テ本年モ亦十二月一日ヲ期シ防火デー運動ヲ實施スルコト、ナリ午前八時演習警報警報發令ト共ニ警防團自衛團及各隣組ハ夫々防護體制ヲ整フルト共ニ午前九時警防團ハ縣社子鐵倉神社大前ニ於テ防空防火祈願祭ヲ執行引續キ第一國民學校ニ於テ規律訓練ヲ行ヒ更ニ午後零時三十分演習空襲警報發令セラルルヤ各防空機關ハ一齊ニ防護活動ニ移リ綜合的訓練ヲ實施シ直ニ實下ニ相應ハシキ勇壯ナル活動ヲナシ午後一時三十分演習空襲警報解除トトモニ訓練ヲ終了更ニ訓練終了後警察官吏、警防團及各隣組協力ノ下ニ各戸ノ火器取扱所ノ檢査ヲナシ當日ノ行事ヲ終了セリ

#### 防空實施開始命令

十二月八日午前八時二十分警察局長ヨリ防空實施開始命令ヲ受領セシテ以テ豫テ計畫セル本市防空計畫ニ基キ各防空指導員、區內會長及自警團長ヲ市會議事堂ニ召集セシメ市長ヨリ左ノ命令ヲ下シ且ツ所要ノ指示ヲ與ヘ愈々國民防空ノ精華ヲ發揮スルコト、ナリタリ

### 防空實施開始命令

十二月八日午前八時二十分福島縣全部ニ亙リ防空實施ノ發開始ヲ命ゼラル市民ハ一致協力忠君愛國ノ精神ヲ發揮シ死力ヲ以テ郷土ヲ守ルノ決心ヲ堅フシヨリ心ヲ落付ク最モ速カニ防火、燈火管制及防護ノ設備ヲ完備シ別紙要綱ニ從ヒ以テ防空ノ萬全ヲ期セラレタシ

昭和十六年十二月八日

平市長

### 市葬

故陸軍兵長松崎康利氏。故陸軍上等兵松崎和兵衛氏、故陸軍一等兵薄葉誠氏ノ合同市葬ハ十二月十三日午後一時ヨリ平市公會堂ニ於テ猪瀬市長司祭者トナリ委員長、副委員長、市葬儀委員夫々奉仕盛大嚴肅裡ニ執行セラル式場ニハ福島縣知事、福島縣警備司令官ノ各代理官、市名譽職員、官衛長學校長、隣接町村長、各種團體ヲ始メ一般市民多數參列所定ノ順序ニヨリ野崎委員長開式ヲ宣シ一同英靈ニ對シ拜禮ノト、神式、佛式ニ移リ次デ市長ノ祭詞、遺族ノ玉串奉奠、燒香、福島縣知事、聯隊區司令官ノ弔詞代讀市會議長、在郷軍人會、平市聯合分會長、其ノ他順次弔詞、玉串奉奠、燒香ヲ爲シ、畢ツテ一同拜禮、市長ノ挨拶、遺族代表ノ謝辭、次デ閉式ノ辭ニテ午後二時四十分終了セリ、更ニ松崎兵長ハ公會堂ヨリ、松崎上等兵薄

葉一等兵ハ靈柩車ニテ第四國民學校ニ到リ葬列ヲ整ヘ沿道各學校生徒塔列一般市民ノ葬送ヲ受ケ市外弘源寺、長福寺、市内淨國寺ニ埋葬シタリ

### 市會

昭和十六年十一月二十八日開會十二月五日閉會セリ 附議事件左ノ如シ  
一 昭和十六年度市民稅賦課ノ件  
一 臨時家族手當支給規程中改正ノ件

昭和十六年十二月八日急施市會ヲ開會 左ノ感謝激勵文ヲ決議シ東條內閣總理大臣、東條陸軍大臣、島田海軍大臣、東郷外務大臣ニ宛テ決議文ヲ電送シタリ  
急施市會ノ決議ヲ以テ政府ノ勇斷ヲ感謝シ聖業完遂ニ邁進セラレシコトヲ熱望ス

平市會議長 野崎 滿 藏

### 市參事會

昭和十六年十一月二十二日開會附議事件左ノ如シ

- 一 昭和十六年度平市歲入歲出追加更正豫算
- 一 昭和十六年度特別會計公益質屋歲入歲出追加更正豫算
- 一 寄附採納ノ件
- 一 市有地使用承認ノ件



### ◎時艱克服戰勝祈願祭並市民大會

畏クモ十二月八日米國及英國ニ對シ宣戰布告ノ大詔渙發セラレタルニ付同日午後三時縣社子歛倉神社ノ大前ニ時艱克服戰勝祈願ノ祭典ヲ執行シ次テ市民大會ニ移リ左ノ感謝激勵文ヲ決議シ東條内閣總理大臣、東條陸軍大臣島田海軍大臣ニ宛テ決議文ヲ電送シタリ

政府ノ御英斷ニ對シ深甚ナル敬意ヲ表シ我等ハ誓ツテ時艱克服ニ邁進セシコトヲ期ス

平 市 民 大 會

### ◎委 員 會

- 十一月十六日 石炭試掘委員會
- 十一月二十日 學務委員會
- 十一月二十五日 第五國民學校建設委員會
- 十二月八日 第五國民學校建設委員會

### ◎市 常 會

- 一、興亞奉公日 「一億前進ノ誓ヒ」正シキ反省カラ力強キ前進ヘ
- 一、十一月十九日 市支部當務委員會 午前十時ヨリ市長室ニ開キ二十

平 市 公 報 第四十五號 昭和十六年十二月十五日 (毎月一回十五日發行)

三日市常會提出事項ニ付審議シ左ノ件ニ付意見ノ交換ヲ行フ

- (一) 放送振興委員會ニ關スル件
  - (二) 興亞奉公行事實施上磐城文化教會ト連絡協調ノ件
  - (三) 翼贊壯年團結成ニ關スル件
  - (四) 門松廢止ニ關スル件
  - (五) 婦人洋髮ニ關スル件
- 一、十一月二十三日 市常會 午後一時ヨリ市公會堂日本間ニ於テ開ク  
提出事項左ノ如シ

一、縣及縣支部提出

- (一) 青年學校振興ニ關スル件
- (二) 神宮大麻ノ奉齋ニ關スル件
- (三) 貯蓄實踐強調運動ニ關スル件
- (四) 家庭金屬特別回收運動ニ關スル件
- (五) 軍人援護ノ徹底ニ關スル件
- (六) 冬明嶺山勤勞報國隊結成ニ關スル件

二、市提出事項

- (一) 興亞奉公日實施要綱ニ關スル件
- (二) 事變國債及債券ノ隣保消化ニ關スル件
- (三) 一般家庭金屬類特別回收準備調査ニ關スル件
- (四) 入營應召兵ニ對スル歡送方ニ關スル件

三、申合事項

- (一) 門松ヲ廢シテ飾ヲ簡素ニスルコト
- 四、各區ヨリノ要望事項

- (一) 土木工事ニ關スル事
- 1 管ノ澤道路掘下ノ件
- (二) 物資配給ニ關スル事項

- 1 飯米配給券訂正ニ際シ家族減員ノ場合市役所ニ於テ取扱フヤウ改メラレタシ
  - 2 釘ノ配給ヲ要望ス
  - 3 飯米配給實施上轉住證明制ヲ定メラレタシ
- 五、雜 件
- 1 保有米ニ付テ
  - 2 翼貸壯年團ニ付テ
  - 3 甘藷配給ニ付テ

昭和十六年十二月十五日

發行所 平市役所  
發行人 猪瀬乙彦

印刷者 川崎文治  
福島縣平市長橋町三五番地

印刷所 常盤每日印刷株式會社  
福島縣平市長橋町三五番地  
電話 六三〇